

時間 ^{注)}	出来事	雑感
AM 5:00	起床・支度して家を出る	今年最後で最初の早起き。眠たし。
AM 6:00	お店に到着 店主と年配のマダムが2名で蕎麦打ち中 蕎麦粉をひたすら測る役目を拝命 各々作業に集中	店内は熱気がこもり、もう茹でてい るのかと思うが、気のせい。おふたり はすでに数日間、蕎麦を打ち続けて いる気配。息ぴったりでお母様？ 店内のライブ感に意識が覚醒。 店内は無言、時折、店主の「はい、次」 という一言のみ。
AM 8:00	蕎麦粉計量に加え、打ち立てのお 蕎麦を2食あるいは4食ずつパッ クに入れまくる	気づけば外は明るく、表に人の往来。 まだ8時？すでに昼の気分。 自分が蕎麦粉マシーンになった感 覚。厨房内粉が舞い踊り、不意にナウ シカの腐海シーンを想起。
AM 8:30	友人 H と M が到着し元気に挨拶 ふたりは店頭販売係に	ふたりとも、店内のすでに出来上が った感に少々たじろいでいる。先刻 の自分を見る思い。
AM 8:45	予定を早めて開店 お客様が来始める	店頭の気配に店主の蕎麦打ち加速、 緊張感が増す。大晦日のお蕎麦屋さ ん幕開けでござる。
AM 11:00	美女が束の間ご来店 客足本格化 予約分の引き取り加速	何と美女は店主の奥様。マダムは会 釈のみ、関係性はいかに。 ともあれ蕎麦打ちパック詰め佳境。
PM 13:00	お客様からお怒りの電話、6食分 を予約して先ほど請けとったが、4 食しか入っていなかったとのこと	自分が担当したお客様と直感。 申し訳なささと焦りに脳天から汗が噴 出。と、同時に（これが所謂クレーム 対応！）と不謹慎にも感動。しかし。
PM 13:01	店主が電話を代わり、対応 その後「あなた、責任取れないで しょ、対応はすぐに変わりなさい」 とお叱りを受ける	電話口のお客様のお話を聞き、報連 相をすっ飛ばして対応まで考えよう としてしまった。然るべき対応をと れず。これはまさにミス。猛省。
	無言で蕎麦打ちを再開された店主 の背中に頭を下げお詫びする 店主「はい。次」とのお声 予約分の再確認、慎重にパック詰	自らの未熟さと課題を痛感。 同時に店主の懐の深さと背中越しの 一声になんとか視界がにじむ。にじ んでしまう。

<p>PM 15:00</p>	<p>めに邁進</p> <p>客足落ち着く 店頭で販売係の友人 H と M の声 が響く 予約お渡し分は半数を切った模様 順番に遅めの昼休憩</p>	<p>我に残されたる道はこの目前の役目 を果たすのみ。</p> <p>友人H「食べなきゃソソソ、おいし いおいしいお蕎麦です！」M「ハイ、 こちら～おいしいです～」ふたりと も一口も当店のお蕎麦を食べていな いはずだが、精神的にはすっかり一 員。軽妙な呼び込みに笑ってしまう。</p>
<p>PM 16:00</p>	<p>クレームのお客様来店、店主とお 詫びする</p> <p>蕎麦打ち相棒マダムが「それじゃ 失礼します」と帰宅、店主「ご苦勞 様でした」と背中で見送る 店主の蕎麦打ちは单身ラストスパ ートへ</p>	<p>お電話と打って変わってにこやか。 再び視界がにじむ。働くってすごい。</p> <p>どうもマダム、臨時バイトの方との こと。突然の相棒不在・お母さんだと 思っていただけに、一抹の寂寥感。 店主、私はマダムの代わりはできや せんが、粉、きっちり量りやす。</p>
<p>PM 17:00</p>	<p>ご予約分お渡し完了 最後のパック詰め 友人HとMは、一足先に勤務完了</p> <p>蕎麦が旅立った後の店内拭き掃除 店主、厨房内でしばし空を見つめ、 最後の蕎麦打ち</p>	<p>予約完了で一安心。HとMはふたり で数百食売上。その後ろ姿はもはや 風格が漂う。「助かったよ」と言う店 主の眼鏡は蕎麦粉で真っ白。</p> <p>1日だけとは思えないほどの愛着を こめてテーブルを拭く。 店主、全身真っ白で、ジョーの如し。</p>
<p>PM 18:00</p>	<p>店主「そろそろあがっていいよ」 1日のお給金とお土産のお蕎麦 を拝領 お礼を述べて「お先に失礼します」 と退勤</p>	<p>1日の立ち仕事で足がハムのよう。 出勤した約12時間前が前世のよう。 激動の、いや激働の大晦日、労働の対 価と年越し蕎麦のありがたさよ。 店主、誠にお世話になりやした、どう ぞどうぞよいお歳を！ 夜道を一直線に帰宅。</p>